

日本経済新聞

看護学科の大学生、市民にがん知識普及 山口県周南市の新たな挑戦



山口県周南市と周南公立大学、アフラック生命保険の3者が2026年8月、がんに関する正しい知識の普及やがん検診の受診促進などを目的とする連携協定を結びました。

3者は9月、周南公立大学で「周南ヘルスフェスタ」を開催しました。私も参加し、基調講演を行いました。土曜の午前にもかかわらず、200人を超える方々が会場を訪れ、がんの予防や検診について耳を傾けました。

会場で特に印象に残ったのが、同大学看護学科の学生たちの姿でした。学生たちはがんやがん検診について学び、市の保健師らの支援を受けながら集まった市民に知識を伝えていました。

山口県が直面する健康課題の一つが、がん検診の受診率の低迷です。22年の国民生活基礎調査によると、山口県のがん検診受診率は主要5がん全てで全国平均を下回りました。乳がんと子宮頸（けい）がんは全国最下位でした。

周南市の中心部には、江戸時代に長州藩の支藩である徳山藩の城下町だった徳山があります。幕末の長州といえば、吉田松陰の松下村塾を思い浮かべる人も多いでしょう。小さな私塾から高杉晋作や伊藤博文ら、後に日本の社会を大きく変えた若者たちが育ちました。

毛利家が治めた防長二州の各藩は人材育成に力を注ぎ、徳山藩にも医学館が置かれました。1785年には藩校鳴鳳館が置かれるなど、学びを重んじる土地柄がありました。

かつて学びを通じて人を育ててきたこの地が、がんという現代の国民病にどう向き合うか。医療職を目指す若者が大学で得た知識を地域に広げ、市民に健康の大切さを伝えるといった周南市の新たな試みに、山口の歴史と重なるものを感じました。

周南市にはもう一つ象徴的な存在があります。旧知の藤井律子市長です。

藤井市長は広島大学医学部付属看護学校を卒業後、同大医学部付属病院原爆医療研究所の臨床外科病棟で看護師として勤務した経験を持っています。山口県議会議員を4期務めた後、市長となりました。がんの啓発や教育にも熱い思いを持つ畏友です。

今回の講演を機に、私自身も周南市の市政アドバイザーとして市の健康づくりを支援することになりました。若者の力も借りながら、市民ががんを正しく知り、検診を受ける。検診受診率を向上させてがん死亡率を引き下げ、健康寿命の延伸を目指す。学びを地域の健康につなげる周南の挑戦を支えていきたいと思います。

2026年9月30日